

櫻坂を緩歩中

私立高校の「まわし合格」・「スライド合格」

私立高校の多くは、特進コース、進学コース、総合コースなど複数のコースを設置しております。そして、ほとんどの私立高校では合格基準の高いコースで不合格となった場合でも、合格基準に達しているコースがあった場合、そのコースで合格となります。これを「回し合格」や「スライド合格」とよんでおります。（「まわし合格」という表現は、よくありませんが、私立高校側が使用している表現なので使わせていただきます。）

ただし、合格基準の低いコースに出願し、入試の結果、合格基準の高いコースの合格点を上回っても合格基準の高いコースでの合格とはなりません。つまり、「逆回し合格」・「逆スライド合格」はあり得ません。

これは、生徒（受験生）の意思を尊重するためです。

こうした制度をご理解の上、今後、私立高校のコース選択し、最終的に出願してください。

なお、札幌第一高校では総合進学コース（または文理北進コース）で出願しても、より合格基準の高い文理北進コース（または文理選抜コース）の合格点を上回った場合、合格通知とともに「文理北進コース（または文理選抜コース）の合格点に達しているため、文理北進コース（または文理選抜コース）での入学手続きも可能です。」といった通知文が届きます。

- ☛ これまで、このルールが適用されておりましたが、来春の受験でもこのルールが適用されるかどうかは、念のために後日（9月頃）、札幌第一高校へ問い合わせをする予定です。

●高校入学後の「転コース」

先に記しましたように、多くの私立高校は複数のコースを設置しておりますが、高校1（2）年から2（3）年進級時にコースを変更する、いわゆる「転コース」を希望する生徒がおります。

転コースにつきましては、できる高校とできない高校があります。

例えば、北海道科学大学高校は、転コースが可能な旨をパンフレットに明記しております。

ただし、希望すれば誰でもコース変更が可能なわけではなく、高校1（2）年時の成績等をもとにコース変更の認可がなされます。

一方、札幌第一高校は原則として、コース変更を認めていないといえます。理由はコース毎に使用している教科書及び教育課程が異なり、コース変更した場合、卒業に必要な単位を取得をすることができないためだといえます。例年、2～3人、授業についていけないことを理由にコース変更を希望する生徒がいるそうですが、個別指導等、コース変更以外の形でサポートしているといえます。

●住所記載

今後、「入学願書」等に住所を記載（W e b 入力）することが多々あると思います。

その際、「北海道札幌市東区…」と北海道から記載すべきなのでしょうか。それとも「札幌市東区…」と北海道を省略して記載すべきなのでしょうか。

住所の表記は都道府県から記載するのが原則です。

しかし、「住民基本台帳事務処理要領」により、一般的に①政令指定都市は、都道府県名を省略して書いてよいとされています。

そこで、札幌市は北海道を省略できますが、旭川市は「北海道旭川市…」となります。

一般的に②都道府県庁所在地が都道府県と同一名の「市」は、都道府県名を省略して書いてよいとされています。

そこで、 沖縄県那覇市…（那覇市は県庁所在地であるが県名と不一致）

沖縄県沖縄市…（県名と市名が同一名であるが、沖縄市は県庁所在地ではない。）

山口市…（県名と市名が同一名であり、山口市は県庁所在地である。）

となります。

進路学習の一環として紹介させていただきました。

ただし、北海道立高校及び札幌市立高校の願書のW e b 入力につきましては、後日、マニュアルが示されると思われれます。
北海道から入力するか、札幌市から入力するかは、そのマニュアルにしたがってください。

◎coffee break 新薬開発の時間と成功確率

日本において、1つの新薬を開発するのに要する時間は、9～17年といわれております。

「**基礎研究**」といって、新薬の候補となる物質を見つけ出します。これに2～3年を要します。

次に、動物等を用いて薬の効用と副作用を調べる「**非臨床試験**」に3～5年、人によって薬の効用と副作用を調べる「**臨床試験（治験）**」に3～7年かかり、厚生労働省に製造・販売するための「**承認申請**」を行います。承認されるまでには通常1～2年かかります。

なお、こうして承認される**新薬の成功率は約23,000分の1**といわれ、多くの候補物質の中から、ごくわずかな物質だけが薬として認められるのです。

薬の価格には、こうした研究費用も加算されるため、高価となり、製薬会社は特許出願により、およそ20～25年間、開発した薬を独占的に製造、販売する権利が与えられるのです。

しかし、特許期間が終了すると権利は国民の共有財団となるため、他の製薬会社も同じ有効成分を使用した薬の製造・販売が可能となります。これを後発医薬品（ジェネリック）といいます。